

地域密着型金融に係る具体的事項 平成 22 年度進捗状況（22 年 4 月～23 年 3 月）

西兵庫信用金庫

<p>項 目</p>	<p>(1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化</p>
<p>取組方針 及び目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先企業のライフサイクル（創業・新事業支援、経営改善支援、事業再生、事業承継）にあわせた審査機能を強化し、各種手法の活用等を通じて取引先企業の支援に取り組む。また、経営全体のニーズに対応する関係を構築するために人材育成や情報ネットワークの構築・活用を行っていく。特に、事業再生においては、企業価値が保たれているうちの早期再生と、再生後の持続可能性ある事業再構築を目指していく。</li> </ul>
<p>推進態勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引先企業のライフサイクルにあわせた支援については、資産査定管理部（経営支援課）が中心となり推進する。</li> <li>審査機能の強化と各種手法の研究・活用について、審査部は、資産査定管理部（経営支援課）と協調して取り組む。</li> <li>異業種交流会、経営者等の意識改革に関するセミナー等の開催については業務部が担当する。</li> <li>職員の人材確保・育成については人事部が担当する。</li> </ul>
<p>小項目</p>	<p>①事業再生支援</p>
<p>具 体 的 取 組 策 (目標設定を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営支援先の適正な認定と経営改善計画の策定支援</li> <li>経営改善計画の進捗管理の徹底</li> <li>中小企業診断士による経営改善についての実効的な取り組み</li> <li>経営支援先訪問を通じた実態把握と営業店との連携によるランクアップへの取り組み</li> <li>事業再生手法の研究(中小企業基盤整備機構のファンド、DES、DDS、保証協会付 DIP ファイナンス、再挑戦支援保証等)</li> <li>取引先企業の事業価値を見極める能力を持った人材の継続的育成</li> </ul>
<p>22 年 4 月～23 年 3 月の進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 22 年度の経営支援先の選定については、前年度より 7 先を解除（ランクアップ 5、ランクダウン 1、他 1）し、7 先を追加した。</li> <li>経営支援課の担当者が 2 か月に 1 回の訪問と毎月試算表徴求によるモニタリングを実施した。</li> <li>経営支援先 10 先については、中小企業診断士 4 名が担当し、経営改善について支援した。</li> <li>銀行協会融資問題研究会主催の事業再生手法説明会、保証協会主催の事業再生担当者会議等に参加して、事業再生手法や利用方法を研究した。</li> <li>派遣研修を主として、「目利き力・企業再生支援講座」へ 12 名を派遣。また、通信講座「目利き力養成講座」を 14 名受講、取引企業の事業価値を見極める能力を持った人材の継続的育成を図った。</li> </ul>

<p>進捗状況に対する評価及び今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定、策定支援、進捗管理、訪問による実態把握は概ね良好であった。平成 22 年度中のランクアップは 3 先の実績となった。訪問頻度、再生支援の優先順位等、モニタリングの実施方法のルール化が課題</li> <li>・中小企業診断士による支援は、現地での指導が不足し、主に書類上の関わりとなった。中小企業診断士による取組方法の工夫が課題</li> <li>・各種説明会・会議に積極的に出席し、事業再生手法を研究した。事業再生手法の事例研究等を活かし、顧客の状況に応じて適切な利用を図ることが課題</li> <li>・人材の継続的育成は計画どおり進捗している。研修等受講後の実践状況の把握と受講生による他の職員への OJT の継続実施の把握が課題</li> </ul>
--------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

小項目	②創業・新事業支援
<p>具体的取組策 (目標設定を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立大学産学連携センターとの連携強化</li> <li>・地方公共団体、商工会議所、商工会等との連携強化</li> <li>・創業、新規事業に係る外部機関との連携強化</li> <li>・保証協会の創業者向け保証制度、地公体の創業者向け制度融資の活用</li> </ul>
<p>22 年 4 月～23 年 3 月の進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立大学産学連携センターと連携し事業所の技術相談や課題の解決に向けた取組みを実施（今期 15 先を訪問し内 2 先の案件が大学の地域連携卒業研究テーマに採用された）</li> <li>・宍粟市、宍粟市商工会との連携のもと地元の若手経営者を対象に「経営革新塾」（22/9～12）を開講し経営改善や創業について支援を実施</li> <li>・保証協会、地公体創業者向け制度融資利用 3 件 30,800 千円 上記制度融資以外の創業者向け融資 10 件 236,800 千円</li> </ul>
<p>進捗状況に対する評価及び今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立大学産学連携センターとの連携では実効的な取組みをした。</li> <li>・創業者向け融資に積極的に対応したが、保証協会・地公体の創業者向け制度融資の活用を図ることや従来の連携先以外の機関活用も検討することが必要</li> </ul>

小項目	③経営改善支援
<p>具体的取組策 (目標設定を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善計画の策定支援と進捗管理の徹底</li> <li>・条件変更対応先への経営改善計画の策定支援と進捗管理の徹底</li> <li>・経営支援先訪問を通じた実態把握と営業店との連携によるランクアップへの取組み</li> <li>・中小企業診断士による経営改善支援についての実効的取組みとビジネスマッチング情報等の提供</li> <li>・経営改善計画による条件変更への取組み</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にししんクラブ講演会の開催</li> <li>・異業種交流会の開催と会員への「しんきん経営情報」冊子の定期的送付</li> <li>・「川上・川下ビジネスネットワーク」への参加</li> <li>・企業のライフサイクルに付随するニーズに対応できる人材の継続的育成</li> </ul>
<p>22年4月～23年3月の進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算終了時の経営改善計画の策定支援と、その後2か月に1回の訪問及び毎月試算表徴求によるモニタリングを実施した。</li> <li>・貸出条件変更時の経営改善計画の策定支援と、その後3か月に1回の訪問及びモニタリングを実施した。</li> <li>・経営支援先10先については、中小企業診断士4名が担当し、経営改善について支援した。</li> <li>・新たに立ち上げた「にししんビジネスネットワーク」によるビジネスマッチング情報等の提供を実施した。</li> <li>・柔軟に貸出条件変更に取り組むため、経営改善計画の作成支援の申出に対して、適切に対応したうえで、改善計画の進捗・問題点・支援内容等をチェックした。</li> <li>・にししんクラブ講演会を11月20日(土)に開催した。</li> <li>・異業種交流会を1月19日(水)に開催。「しんきん経営情報」を毎月会員宛送付した。</li> <li>・当金庫の新築開店等に伴いコーナーを設けて、地域の物産品の展示紹介をした。</li> <li>・「川上・川下ネットワーク構築事業フォーラム」でのプレゼンテーション、ビジネスフェアに取引先4社が出展し当金庫も参加(10月15日)した。</li> <li>・年4回開催された「川上・川下ビジネスネットワーク」推進会議に出席した。</li> <li>・通信講座「法人融資渉外実践講座」5名「法人融資渉外基本講座」12名受講、派遣研修「融資渉外講座」へ2名派遣。通信講座受講等を通して人材の継続的育成を図った。</li> </ul>
<p>進捗状況に対する評価及び今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善支援の取組に対する体制は確立できた。改善計画の実効性確保のため深度ある取組が必要</li> <li>・経営改善計画の作成支援の申出に対して、積極的かつ適切に対応した。期中モニタリング等により、経営改善計画の進捗を管理し、継続した的確な指導をすることが必要</li> <li>・組織活動については計画どおりに実施できた。(社)兵庫県信用金庫協会が推進するビジネスマッチングは順調に推移している。異業種交流会の活動について再検討が必要。新たな登録企業としてシーズ企業の発掘が課題</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材の継続的育成は計画どおり進捗している。受講後の実践状況の把握と、実務への応用力の把握が課題</li> </ul>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------

小項目	④事業承継支援
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業承継に係る外部機関の活用等</li> <li>・M&amp;A等に関する情報の提供</li> <li>・「にししん J-CLUB」講演会・親睦会・セミナー等の開催</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月営業店に、しんきんM&amp;A情報を提供。新たに立ち上げた「にししんビジネスネットワーク」にもM&amp;Aと事業承継に係る情報を募ることとした。</li> <li>・5月19日(水)に第6回セミナー、11月2日(火)に第7回セミナー、1月26日(水)に第8回セミナー等を開催した。</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業承継について外部機関の活用が出来なかった。「にししんビジネスネットワーク」の積極的活用と外部機関の活用を検討することが課題</li> <li>・セミナー等を計画的に開催した。セミナー等の開催について、頻度・内容等を更に充実させていくことが課題</li> </ul>

項目	<p>(2) 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底</p> <p>①事業価値を見極める融資(不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資)の徹底</p>
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先企業の不動産担保、個人保証に過度に依存することなく、定性情報を含めた地域での情報を生かし、事業価値を見極めて金融サービスを行う。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発については業務部が中心となり担当する。</li> <li>・信用リスクの軽減については審査部が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業融資への積極的取組み 平成22年4月～6月：事業者向商品開発</li> <li>・動産・債権譲渡担保融資、ABL等の活用</li> <li>・様々なコベナンツ(債務者企業に契約で定められた事項の報告義務を課すもの、停止条件付連帯保証&lt;事業や経営状況の報告義務を課す等のコベナンツを付し、当該コベナンツ違反を停止条件として代表者に連帯保証を求めるもの&gt;)等の活用</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に新規事業所開拓商品として「にししんフロンティア」の取扱いを開始(実績)138件1,343百万円</li> <li>・「ビジネススクイックローン」の取扱いによる中小企業等への積極的な資金供給(実績)300件2,901百万円</li> <li>・動産担保融資については、しんきんMEサポートを利用し、債権譲渡担保融資については、保証協会制度を利用した。</li> </ul>

進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「にししんフロンティア」「ビジネスクイックローン」とも積極的に推進した。</li> <li>・ シンジケートローンにおいてコベナンツの活用をしている。ABL 取組時にもコベナンツを活用していくことが課題</li> </ul>
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

小項目	②目利き機能の向上
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相互扶助の理念の下、商工会議所・商工会をはじめ、地域での各方面との連携の中で情報の非対称性を埋めていきながら、取引先企業の事業価値を見極める「目利き機能」を向上させる。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成については人事部が中心となり担当する。</li> <li>・ 外部機関との連携、諸制度の検討については資産査定管理部（経営支援課）が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目利き機能」等コンサルティング能力向上のため、中小企業診断士の養成と派遣研修の継続実施</li> <li>・ ひょうご産業活性化センターの各制度の利用</li> <li>・ 県立大学産学連携センターとの連携推進</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目利き力養成講座」等、外部研修へ継続的に派遣するとともに、中小企業診断士養成のため、今期は中小企業診断士資格試験1次試験合格者1名を中小企業大学校へ派遣中</li> <li>・ 「ひょうご中小企業技術評価制度」を15先が利用、うちサポートローン1先を推進した。「知的資産経営」の取組を検討した。</li> <li>・ 県立大学産学連携センターのコーディネーターと連携して15先を訪問・相談に応じる。大学での研究発表が2先できた。</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派遣研修主体に能力向上に取組んでいるほか、中小企業診断士を計画的に養成している。</li> <li>・ 「ひょうご中小企業技術評価制度」を積極的に推進した。県立大学産学連携センターとの連携も積極的に推進した。営業店が積極的に関与するような体制づくりが課題</li> </ul>

小項目	③中小企業に適した資金供給手法の徹底
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業価値を見極める融資以外にも、取引先中小企業へのリスク対応力、資金供給力を高める手法を研究する。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新商品の開発・管理については業務部が中心となり担当する。</li> <li>・ 信用リスクの軽減については審査部が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業融資への積極的取組み 平成21年4月～6月：事業者向商品開発</li> <li>・ スコアリングモデルを活用した融資の取組み</li> <li>・ シンジケートローンの活用や新しい融資形態について検討</li> </ul>

22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月に新規事業所開拓商品として「にししんフロンティア」の取扱いを開始〈実績〉138件 1,343百万円</li> <li>・ スコアリングモデルを活用した融資〈実績〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーじんそく 11件 327百万円</li> <li>じんそく 3件 54百万円</li> <li>活性化資金 7件 115百万円</li> <li>ビジネスクイックローン 300件 2,901百万円</li> </ul> </li> <li>・ シンジケートローン 5件 1,077百万円</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「にししんフロンティア」「ビジネスクイックローン」とも積極的に推進した。</li> <li>・ 保証協会スコアリングモデルの融資についても積極的に推進したい。</li> </ul>

項目	(3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献 ①地域の面的再生
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域経済全体を展望したビジョン策定への積極的支援や、公民が連携した取組みへのコーディネーターとしての参画等を通じて、地域で積極的な役割を果たしていく。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務部が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宍粟市起業家支援策の活用</li> <li>・ (社)兵庫県信用金庫協会が推進する「川上・川下ビジネスネットワーク構築事業フォーラム」への参加</li> <li>・ 地公体向け融資の積極的推進</li> <li>・ NPO法人への支援</li> <li>・ ボランティア活動</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新事業支援融資商品を金利面で利用しやすく設計し直した。</li> <li>・ 「川上・川下ネットワーク構築事業フォーラム」でのプレゼンテーション、ビジネスフェアに4社が出展し当金庫も参加した。</li> <li>・ 地公体への資金需要に対応した。兵庫県のシンジケートローンにも参加した。</li> <li>・ NPO法人への融資(22年度3.7百万円)</li> <li>・ 月1回の本店周辺の清掃活動、たつの市花火大会後の清掃活動、12月ブロック単位にて清掃活動を実施した。</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川上・川下ビジネスネットワーク構築事業、地公体への積極的融資、NPO法人への支援、ボランティア活動については積極的に取組んだ。</li> </ul>

小項目	②地域活性化につながる多様なサービスの提供
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域経済に貢献しつつ、自らの収益向上にも結びつく持続可能性ある形で多様な金融サービスを提供し、地域全体の活性化につなげていく。</li> </ul>

推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融知識の普及については人事部が中心となり担当する。</li> <li>それ以外については業務部が中心となり担当する。</li> </ul>															
<b>具体的取組策</b> <small>(目標設定を含む)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宍粟市内の小学校、中学校主体に「金融出前講座」の実施</li> <li>顧客ニーズを踏まえた融資商品目的別ローン等への取組み</li> <li>個人、中小企業者の資金ニーズに対する細やかな対応</li> <li>コミュニティ・ビジネスやNPOへの支援、融資等への取組み</li> <li>事業者向け商品開発（平成22年4月～6月）</li> <li>新規事業所開拓</li> <li>「フリーローン」の積極的推進</li> <li>預かり資産（個人年金・投資信託・個人向け国債・火災保険等）の積極的推進</li> </ul>															
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>宍粟市内、小学校8校・中学校1校に対して「金融出前講座」を実施した。</li> <li>一部の消費者ローンについて、顧客ニーズに応えられるように融資対象者・金額・期間等商品内容を見直した。</li> <li>9月に新規事業所向け商品「にししんフロンティア」の取扱いを開始、1月よりしんきん保証基金を中心に個人ローンを推進、6月より「標準傷害保険」の取扱いを開始〈実績〉</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>フリーローンを含む個人ローン</td> <td>1,221件</td> <td>1,346百万円</td> </tr> <tr> <td>にししんフロンティア</td> <td>138件</td> <td>1,343百万円</td> </tr> <tr> <td>ビジネスクイックローン</td> <td>300件</td> <td>2,901百万円</td> </tr> <tr> <td>個人年金</td> <td></td> <td>261百万円</td> </tr> <tr> <td>標準傷害保険</td> <td></td> <td>8,344千円</td> </tr> </table>	フリーローンを含む個人ローン	1,221件	1,346百万円	にししんフロンティア	138件	1,343百万円	ビジネスクイックローン	300件	2,901百万円	個人年金		261百万円	標準傷害保険		8,344千円
フリーローンを含む個人ローン	1,221件	1,346百万円														
にししんフロンティア	138件	1,343百万円														
ビジネスクイックローン	300件	2,901百万円														
個人年金		261百万円														
標準傷害保険		8,344千円														
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>宍粟市教育委員会より申出のあった小中学校に対して積極的に実施した。</li> <li>個人・事業主のニーズを踏まえた融資等に積極的に取組んだ。</li> </ul>															

項目	(4) 地域密着型金融の取組状況の公表 取組実績の公表
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域密着型金融の推進に当たっては、地域の利用者の目（パブリック・プレッシャー）を常に意識し、地域密着型金融が深化・定着するように取組み、その推進状況を公表する。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合企画部が中心となり担当する。</li> </ul>
<b>具体的取組策</b> <small>(目標設定を含む)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年1回以上取組状況を公表</li> <li>取組状況の把握と取組推進</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域密着型金融に係る具体的事項」については、平成21年度の進捗状況と平成22年度の計画を年度始めに公表した。</li> </ul>

進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>公表内容をさらに分かりやすくしていくことが課題</li> </ul>
-------------------	---------------------------------------------------------------------------

項目	(5) 信用金庫に特に求められる事項 ①総代会の機能向上に向けた取組み
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界団体の検討事項を踏まえながら、総代会の機能強化に取り組む。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>開示については総合企画部が中心となり担当する。</li> <li>それ以外については総務部が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>総代会制度の仕組等についてディスクロージャー誌等で適切に開示</li> <li>会員の意見を反映した取組みを行うため、会員アンケートを実施</li> <li>総代と金庫、総代相互間の関係強化を図るため、講演会、懇親会等を開催</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>総代会制度の仕組み等についてディスクロージャー誌等で開示を行った。</li> <li>10月に会員アンケートを1,000先に発送、うち365先より回答(回答率36.5%)。アンケート結果に基づき対応を検討した。</li> <li>平成23年2月5日に総代講演会・懇親会を開催した。</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員アンケート、総代講演会・懇親会とも計画どおり実施できた。取組内容を充実させていくことが課題</li> </ul>

小項目	②半期開示の充実に向けた取組み
取組方針及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>半期開示にかかる内容の充実について、業界団体からの開示方針を参考に、積極的に取り組む。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合企画部が中心となり担当する。</li> </ul>
具体的取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>半期開示の充実(開示項目、開示内容、開示方法等の充実)</li> </ul>
22年4月～23年3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年11月に半期ディスクロージャー誌にて仮決算の状況を開示した。</li> </ul>
進捗状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本標準産業分類の改定に伴い貸出金の業種別区分を一部修正した。金融商品に関する会計基準の改正に伴い有価証券の記載内容を一部修正した。業界の開示方針にも注視しながら内容を充実させていくことが課題</li> </ul>



小項目	③信用リスク管理体制の充実
取組方針 及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な信用リスク管理・処理（特に不良債権管理・処理）により、当庫の健全性を確保し、地域密着型金融の取組みを進める。また、小規模事業者については、その特色を踏まえた与信管理を実施する。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>大口与信先とポートフォリオ管理等は審査部が担当する。</li> <li>問題債権管理等は債権管理部が担当する。</li> <li>ランクアップ等への取組みについては資産査定管理部が担当する。</li> </ul>
具体的 取組策 (目標設定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大口与信先に対する、継続的なモニタリングの実施</li> <li>業種等のポートフォリオについての適切な管理の実施</li> <li>小規模事業者についての実態把握</li> <li>債務者についての実態把握と実態に則した適切な債権管理の実施</li> <li>経営実態を総合的に勘案した信用格付の実施</li> <li>経営支援先の実態把握とランクアップへの取組</li> <li>経営支援先の経営改善計画の策定支援と進捗管理</li> </ul>
22年4月～23年 3月の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>大口上位20先について継続的なモニタリングを実施した。</li> <li>不動産建設業比率を設定して管理している。</li> <li>小規模事業者の融資審査は個人と一体で行っている。</li> <li>債務者毎に定めた取組方針に基づき上期、下期に進捗状況を把握した。特に再生支援先は過度の返済を求めることの無いように配慮した取組み及び再生に係るコンサルティング対応を営業店に指導した。</li> <li>定性要因を加味した実態財務、CF検討による返済能力等を勘案した信用格付を実施した。</li> <li>2か月に1回の訪問実施による実態把握とランクアップへの指導実施と改善計画の策定支援と進捗管理を実施した。</li> </ul>
進捗状況に対する 評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大口与信先、ポートフォリオ管理を適切に実施、小規模事業者の実態把握も適切に実施した。小規模事業主の信用格付の導入が課題であるが、共同事務センターの融資統合システム導入後に検討する。</li> <li>債務者の実態把握、進捗状況の確認、営業店への指示、指導等は徹底できた。再生先への更なるコンサル機能の充実・強化が必要</li> <li>体制を整備し、信用格付も適切に実施した。平成22年度中のランクアップは3先。経営支援先への訪問、改善計画策定支援と進捗管理を適切に実施した。専門スタッフによる深度ある取組が必要</li> </ul>

小項目	④市場リスク管理体制の充実
取組方針 及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>有価証券による運用の重要性が高まっている中、さらなる市場リスクの管理強化に努める。</li> </ul>
推進態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>経理部が中心となり担当するが、内部監査については業務監査部が</li> </ul>

	担当する。
<b>具体的 取組策</b> <small>(目標設定を含む)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ VaRによるリスク管理及びバックテストとストレステストによるVaRの有効性の検証と分析の継続</li> <li>・ 有価証券管理システム (i-port) による分析方法の研究及び管理方法の高度化の研究</li> <li>・ 中央・外部機関 (信金中金、証券会社等) の活用</li> <li>・ VaRによるリスク管理の結果検証とバックテストとストレステストによるVaRの有効性の検証の継続</li> </ul>
<b>22年4月～23年 3月の進捗状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ VaRによるリスク管理を実施し、あわせてバックテストを行いその有効性を検証している。また、金利変動の3通りのシナリオにおけるストレステストも継続して毎月行い、今期から新たに、過去の市場環境の大幅な変動を10種類想定してストレステストを実施した。</li> <li>・ 信金中金によるポートフォリオ分析を11月9日に実施。取引証券会社によるリスク管理等の意見交換会を実施した。</li> <li>・ バックテスト及びストレステストによるVaRの有効性を検証し、市場リスク管理の適切性を確認した。</li> </ul>
<b>進捗状況に対する 評価及び今後の 課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ VaR、バックテスト、ストレステストは継続して行い、検証・分析を適切に実施した。特にストレステストはレベルアップを図った。リスク管理方法の高度化の研究及び検証・分析態勢の充実が課題</li> <li>・ バックテストにおいてはヒストリカルなデータの検証を実施。また、想定を超えた事象に対してはストレステストが有効であり、複数のシナリオによるストレステストを実施した。引続きデータ蓄積による計数の妥当性評価と、より適切な複数のシナリオによるストレステストを実施していくことが課題</li> </ul>

<b>小項目</b>	<b>⑤法令等遵守の徹底</b>
<b>取組方針 及び目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令違反や不祥事件を未然に防ぐため、適切な法令等遵守 (コンプライアンス) 態勢を整備するとともに、点検を強化する。</li> </ul>
<b>推進態勢</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合企画部が中心となり担当するが、営業店の法令等遵守状況の点検強化については業務監査部が中心となり担当する。</li> </ul>
<b>具体的 取組策</b> <small>(目標設定を含む)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス・プログラムに基づく施策の実施</li> <li>・ 法令等遵守・顧客説明体制の強化</li> <li>・ 金融円滑化管理体制の強化</li> <li>・ コンプライアンス諸規程の見直しの実施</li> <li>・ コンプライアンス委員会の実効性ある施策の実施</li> <li>・ 研修・勉強会等を通じた職員のコンプライアンス意識の一層の向上</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合監査において、コンプライアンスの遵守状況を実施検証するとともに、コンプライアンス担当者の機能発揮面を重点に検証</li> <li>・ 総合企画部と一層の連携を図り、検証結果を組織全体のコンプライアンス態勢の向上に反映</li> </ul>
<p>22年4月～23年3月の進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス・プログラムの実施計画に基づき、委員会・担当者会議・研修等を行い各体制を強化した。</li> <li>・ 若年職員の階層別研修内容に倫理規程・法令遵守マニュアル・金融ADR制度を取り入れ意識の醸成と体制の強化を図った。</li> <li>・ 貸付条件変更管理システムの導入（8月）、「金融円滑化マニュアル」の制定（4月）と見直し（9月）を行い管理体制の強化を図った。</li> <li>・ 「金融ADR制度」導入に伴い関連諸規程の制定と見直しを行い態勢整備を図った。</li> <li>・ コンプライアンス委員会の活性化を図るため、協議内容について各担当部署ごとの関連項目を確認し、PDCAサイクルの機能強化に取り組んだ。</li> <li>・ コンプライアンス・プログラムの研修計画に基づき計画的に階層別研修を実施するとともに、各部店においても研修計画を作成し、各部店内での課題解決に向けた研修を行いコンプライアンス意識の醸成と向上を図った。</li> <li>・ 22年度総合監査にて、本部各部・全営業店のコンプライアンス態勢を検証し、コンプライアンスの周知については、勉強会やOJT実施などの取組みは良好であり、特に大きな問題点も発生していない。コンプライアンス委員会等についても内容の充実を図っている。</li> </ul>
<p>進捗状況に対する評価及び今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融円滑化に資する貸付条件変更管理システムや金融ADR制度の導入等概ね具体的取組策に沿った進捗状況となった。今後も法令等遵守意識を醸成し、コンプライアンスの実践を徹底したい。</li> </ul>